

学会報告

2011年10月6日～9日にかけて、インドのゴアで開催された The Second Meeting of Asian Society of Head & Neck Oncology (ASHNO) に早渕尚文教授、鈴木弦先生とともに参加させていただきました。この学会は一昨年度に台北で第一回目が開催された学会であり、勉強になるからついでと鈴木先生に誘われたがきっかけでした。また、Robbins 先生の講演(頭頸部に対する動注化学療法について)があると聞き、それも楽しみでした。

学会においては、「Radiation therapy for T2 supraglottic cancer」の演題で鈴木先生の見事な oral での発表を拝聴し、native の如く質問に受け答えする姿が印象的でした。また、poster セッションでは頭頸部領域の治療における様々な治療法を勉強することができました。お国柄なのか、外科的発表が比較的多かったのが印象に残っています。いずれは自分での発表をと改めて思わせました(その前に語学力をどうにかしなければいけません)。Robbins 先生の講演は鈴木先生の発表と重なってしまい、聞くことができなかったのが残念でした。

さて、今回の学会はなかなか行く事がないインドで行われるという事もあり、学会場の雰囲気と食事、移動、+αについて分けて書いていきたいと思います。
<学会場>

学会はゴアの Grand Hyatt Hotel Goa にて開催されました。ロビーの豪勢さや庭園及びその景観に感動しました。しかし、ホテル周囲の治安や店が不明だった事があり、フラッと食べたり買い物に行くと言う事はできませんでした。リゾートホテルであり中に本当に何もなかったもので、時間を持て余した感じでした。鈴木先生みたいに pool や gym を利用する用意をしておけばよかったと思いました。

学会期間中は毎食ホテルでのバイキング形式のご飯を食し、水はそこかしこに用意されていました。食事内容はカレーを主体とし、様々な肉・魚・野菜類に加え、デザート、飲み物(アルコール類を含む)が用意されており、どれもおいしくいただきました。インドに来る前に水と生野菜には気を付けようと3人で話していたのですが、自分は生野菜の誘惑に勝てず、普通に食べてしまいました。おなかの調子を崩さなかったのは幸いだったかと。

<移動>

福岡→香港→ムンバイ(旧地名:ボンペイ)→ゴアと飛行機で移動しましたが、近づくにつれて徐々に機内食がスパイシーになり、これがらしさなのかと思ひ

ました。ムンバイ到着後 4 時間程待ち時間があったのですが、空港の出入り口に自動小銃を構えた軍人さんが空港のあらゆる出口で歩哨に立っていて、びっくりしました。テロ対策との事でしたが、怖かったのを覚えています。

チェックイン時間が来て、手荷物検査場に行った時アクシデントが。パソコンとバッグを分けて検査台にのせたところ、係員から何か叫ばれバッグだけを下されパソコンだけが機械の向こうへと。どうしたらいいのかわからず立っていたら、後ろから次々に人が来て向こうへと抜けていきます。このままではパソコンが紛失するかも、と周りを見渡し、どうやら手荷物ごとにタグを付ける必要がある事がわかり、あわててタグを付けたら、手荷物検査場を抜けることができ、パソコンも無事に確保できました。

無事にゴアに到着し、ホテルへは手配のタクシーでの移動だったのですが、日本と違い、道路の舗装は殆どなかったことと、なかなか運転が激しかったのを覚えています。

帰りはホテルの車でゴア空港まで移動し、タグに悩まされる事もなくムンバイまで順調に移動しました。しかし、ここでまた問題が。なんと出発予定時刻 3 時間前になるまで空港内に入れなかったことが判明。この時点で出発まで 7 時間。仕方がなかったので、空港脇にある waiting room(有料)で過ごす事に。もちろん横になれるスペース等なく、イスとバッグを用いてどうにか足を伸ばして休むのが精一杯でした。

その後、時間が来て空港内に入り、早く入りたかったとひとしきり愚痴り、もう後は帰るだけと思い飛行機に乗りました。ここで最後のドタバタが。なんと香港について後乗継まで一時間を切る事が判明。もともと、余裕がないのは分かっていたましたが、ムンバイ出発が 1 時間ほど遅れたため、さらにタイトな状況になりました。しかし、早瀬教授のおかげで、香港到着前にビジネスクラスへと移動する事ができ、着陸後乗務員用の通路を通過して出発ゲートへと移動できたため、走りはしましたがどうにか搭乗する事が出来ました。そうこうして帰り着き、やはり日本は良いなと改めて感じた次第です。

<+α>

せっかくインドに行ったのだから、何かしらの観光をしようという話になり、ゴアの旧市街及び The Basilica of Bom Jesus(ボム・ジェス教会)を観にくに行く事となりました。ホテルからタクシーで向かい、道すがら周囲の風景を見ていたら、道端を牛がのっそり歩いたり、新旧大小の車が我先にと走っていたのが印象的でした。ちなみに、日本車では TOYOTA と SUZUKI が人気らしいです。

もう一つ。健康のため水と生野菜に気を付けようと前述しましたが、道中鈴木先生だけがおなかの具合を悪くしました。本人いわく「プールで泳いだのが

まずかったかなあ」との事です。

最後になりましたが、学会期間中、治療センター業務を守っていただいた、淡河恵津世先生、江藤英博先生、渡邊裕子先生、遠くに行かれていた末藤大明先生、ならびに医局・同門の先生方に感謝を申し上げます。この場をお借りして、皆様に深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

写真1：夕暮れのアラビア海

写真2, 3：The Basilica of Bom Jesus 前にて

写真4：Old Goa の目抜き通り

写真5：ホテルの庭にて。

写真6：発表直前の鈴木先生

写真7：発表直後の鈴木先生

写真8：韓国の Dr と。

写真9：最終日の晚餐

写真10：朝ごはん。







